

教科目名 社会システム (Infrastructure System)

学科名・学年 : 機械工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ○科目)

単位数など : 選択 1 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
<p>本科目は、JABEE が要請する「社会技術」の知識を獲得するために開講する科目である。21 世紀に入り、日本の経済、産業構造は大きな変革を求められている。また、少子高齢化と雇用形態の変化は我々の社会システムを大きく変えつつある。これらの大きな流れは、わが国の政治・経済や都市・地域のさまざまな側面にも大きな影響を与えている。そこで、本講義では、①このような状況にある都市・地域を正しく認識し、②日本の社会システムが国際経済のグローバル化の中で位置づけられることを理解し、③これらの経済のグローバル化の理論的根拠が経済学に求められ、経済学を学ぶ重要性を理解することを目的として学習するものである。</p>			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (E2), JABEE 目標 (d1⑤) (d2a)	
<p>(1) わが国の経済社会で起きている事象・問題を正しく現状認識ができる。(定期試験) (2) 地域経済学の初歩が理解できる。(定期試験) (3) 都市や地域で起きている問題に関して、事例を調べて小論文にすることができる。(レポート)</p>			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. 都市概説	<ul style="list-style-type: none"> ○社会システムの概要について説明する。 ○日本と世界の都市について学ぶ。 ○都市の歴史について学ぶ。 ○田園都市論について理解する。 ○経済学の基礎用語について理解する。 ○EU, NAFTA, ASEAN, NIEs 等, 国際広域経済圏の過去と現状について理解する。 ○国際経済の現状について理解する。 ○OECD, IMF 等の国際機関について学び、我が国との関わりを理解する。 	【理解の度合い】
	1-1 日本の都市		
1	1-2 世界の国と都市		
2			
3			
4	1-3 都市計画の歴史		
5	2. 経済のグローバル化		
6	2-1 国際広域経済圏		
7	2-2 国際機関		
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9	後期中間試験の解答と解説	<ul style="list-style-type: none"> ○分からなかったところを理解する。 ○社会経済の潮流について、アメリカ型新自由主義と北欧型福祉国家について理解する。 ○A. Smith と J. M. Keynes の二人の経済学者について現代社会に与えた影響を理解する。 ○市場の失敗や外部不経済を理解する。 ○新たな社会資本整備の手法である PFI を英国の事例を通して学ぶ。 	【理解の度合い】
10	3. 社会経済の潮流		
	3-1 小さな政府と大きな政府		
11	3-2 経済学及び経済学者の貢献		
12	4. 地域経済の現状と社会資本整備		
13	4-1 市場の失敗・外部不経済		
14	4-2 PFI		
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	社会科学に興味のある学生の受講を望む。		【総合達成度】
教科書	なし		
参考図書	石井・湯沢・亀野他共著、『地域・都市計画』, 鹿島出版会		
自学上の注意	毎回、多くの演習問題を課すので、学生は自ら教科書や参考書、インターネット等を用いて調べて提出すること。		
関連科目	情報ネットワーク (専攻科), 生産システム特論 (専攻科), 環境保全工学 (専攻科), センサ工学 (専攻科), プロジェクト実験 I (専攻科)		
総合評価	<p>達成目標の(1)～(3)について定期試験とレポートで評価する。 総合評価 = $0.7 \times$ (2回の定期試験の平均) + $0.3 \times$ (レポート) 総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は、総合評価が 60 点に満たない者に対して実施する。なお、再試験の受験資格は、レポートを提出した者で、かつ、定期試験の成績が 40 点以上の者に与える。</p>		